

## 税を追う

取材班から

# 6年前の信念どこへ

二日に行われた衆院予算委員会。共産党の宮本徹氏は、新しく防衛相になった自民党の岩屋毅氏に呼び掛けた。「自らの思いを生かせる立場になった。米国製兵器の爆買はやめるべきだ」と安倍首相に言ってきた。

自民党が野党だった二〇一二年、岩屋氏は衆院安全保障委員会で、米国の対外有償軍事援助（FMS）を利用した最新鋭戦闘機「F35A」の輸入を決めた民主党政権を追及していた。「よその国がつくったものを言い値で買う、ブラッ

クボックスつきで買う、いつできるかわからない、価格がどうなるかわからない調達は、やはり将来に向けては考え直すべきだ」岩屋氏は、FMSの問題点を鋭く突いていた。攻守どころを変えたこの日。「FMSを全部否定し

たわけではない。日本の防衛のため、米国でしかつくれない高性能の装備を導入する必要はある」と答弁した。FMSで米国製兵器をどんどん輸入する安倍政権の一員となったからか、トーンは随分変わっていた。六年前と今、政治家の信念はどこにあるのか。

（鷲野史彦）